かみのやま 歴史・文化財さんぽ

第２２号（令和元年９月）

鶴脛温泉源泉地と法界寺跡

ミドリ「今日は、温泉のルーツをさぐるのね。」

あゆむ「それ、知ってるよ。鶴が傷ついたあしをひたして治しているのを見て、温泉だとわかったということだよね。お城に入るとすぐのところでその説明が聞けるよ。」

ミドリ「そうだったね。それから、下湯にも何か説明板があったと思うわ。 行きましょう。」

あゆむ「あ、これだな。 えーと、下大湯の…。」

ふみお「“下大湯の由来”、つまり歴史だね。寛永元年(1624)、湯町にあった下の湯をここに移したんだって。」

ミドリ「湯町の方が元なのね。いったいいつ、だれがどのように温泉をつくったのかしら？」

あゆむ「向かいにも何かあったぞ。」

ミドリ「まあ、大きい石。それに、鶴が2羽。説明板もあるわ。」

ふみお「“上山温泉（鶴脛温泉）の由来”。 長禄2年(1458)、僧“月秀”が諸国を回って上山の法界寺に住まい、教えを広めていた時に、鶴が傷ついた脚を沼にひたし全快して飛び去った。それで、温泉であることがわかり、村人たちと沼の排水工事をして温泉を開発した。」

ミドリ「それから、8軒の宿屋、上下の湯がつくられて湯町となった。そして、下の湯が移された。」

ふみお「沢庵和尚も入ったと書いてある。それで、沢庵和尚の“鶴脛の出湯”ということばから鶴脛温泉という名の起こりになったらしい。」

あゆむ「おお、こっちにおもしろい絵があるぞ！」

ミドリ「あら、本当！おもしろい。わかりやすいし、歴史が手に取るように見えるわ。」

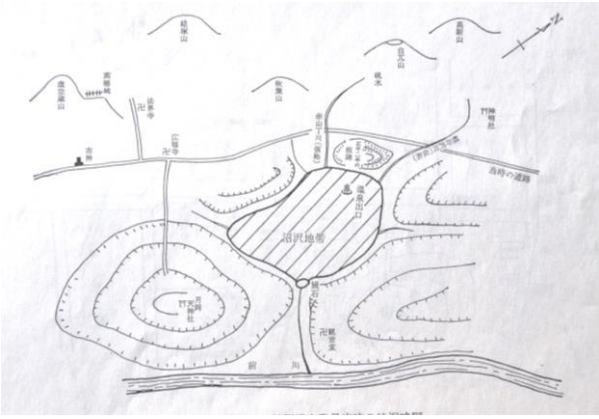
文じい「ふむ、蔦谷榮三先生の絵じゃな。 あちこちにあるが、どれを見ても味わい深いのう。」

ふみお「“鏡橋と月夜”とあるけれど、この大石が沼の水の出口にあったわけか。」

ミドリ「月の光をあびて鏡のように美しかったというのね。いいわね！この中でも一番すてきないい絵だわ！ 本物が見たかった！」

ふみお「石が除かれ沼の水が排水されると、石は橋に利用され、鏡橋と呼ばれ、その辺の地名も鏡橋となったという。」

文じい「ここに、そのころの様子を描いた図がある。沼水の出口に鏡石が見える。沼の水は、昔、“観音寺”前を流れていた前川にどんどん流れ落ち、そこを“鏡淵”と呼ばれたようだ。やがて水が引いて、温泉の出口も見えてきたのじゃろう。」



『上山市史 上巻』より「鶴脛温泉発見当時の地況略図」

あゆむ「よし、湯町に行こう！」

ミドリ「ここの足湯に何度かきたけど、この辺が沼だったのね。」

文じい「沼水がなくなり、温泉が湧き出る所が発見されてからは、人家も建ち、湯治場として栄え、“湯の小路”と呼ばれた。その後、“湯町”という地名になったようじゃ。」

あゆむ「このような石の割れ目のようなところから温泉が出ていたのかな。」

文じい「数か所あったらしいが、昭和の初め頃には出るのが弱まったらしい。それでも、切り石で囲われたその地中の岩の割れ目から、温泉が出ているのを見ることができたという。」

ふみお「今は、“源泉”の場所を決めて集中管理をしているよね。」

ふみお「“法界寺”という寺は、今はないよね。」

文じい「法界寺は、経塚山のふもとにあったらしいのじゃが、月秀和尚が亡くなると寺は荒れ果ててしまって今は無い。その跡については市指定文化財となっておるが、その場所については、まださらに調査が必要じゃ。」

ふみお「なるほど。それと浄光寺が月秀和尚とかかわりがあったような気がしたけど…？」

文じい「さよう。実は、法界寺の方からお城に光が指すので訪ねてみたら、御本尊の阿弥陀如来様がいらしたという。それを城に移したが、光はさらに白禿山のふもとの方を指した。そこで、そこに寺を建立し、御本尊を移し“城光寺”と名付けた。そして、月秀和尚が温泉を開いたことから山号を“湯出山”とした。後に、碑も建てられた。」

ミドリ「ふしぎなエピソードがあったのね。」

文じい「ただ、城光では差しさわりがあるとのことから、後に浄光と改められたという。」

あゆむ「ふーん。ところで、この上のお堂は？」

文じい「温泉発見後にお薬師様が祀られたが、その後、慶長19年（1614）薬師堂が建てられてお薬師様は納められた。その後、大火があって、この上の方に再建された。」

ふみお「月秀和尚と地域の人々のようすがもっとわかるといいけどな…。」

文じい「人々は発見されるもっと前からくらしていただろうし、沼の水も何か温かいというようなことは気づいていただろう。」

あゆむ「鶴もいたのかな。コサギじゃない。それとも何か動物が温まっていたかもね。」

文じい「そんな時に、工事を指導した月秀のような僧もいたのかもしれん。それがだれなのか、いつなのか、なにせ記録は無いので、伝承、つまり、言い伝えということじゃな。」

ミドリ「どこかの温泉に行った時、確か同じような鶴の話を聞いたことがあったわ。言い伝えは、楽しいロマンとして、それでいいような気もする。とにかく、温泉はいいわ！」

ふみお「もっと調べて明らかにしたい気もするけどね。」

発行：　上山市教育委員会生涯学習課文化財・文化芸術係　　電話　023-672-1111（内線 314）